

めぐみ

2022年 12月号

学校法人 聖公会北関東学園
初雁幼稚園
〒350-0057 川越市大手町 8-5
Tel.222-5385 Fax 228-5010
E-mail hatsukari-kg@nifty.com

みんなが必要不可欠

たんぼぼ組担任 鷺巣 春香



遡ること 10 年前…高校生の時に私が夢中になったもの話をしたいと思います。それは「ラクロス」です。皆さんご存じでしょうか？ラクロスは、クロスという先に網のついたスティックを使ってボールを繋ぎ、ゴールを目指す球技です。

私は、中学生まで剣道をやっていたので、今まで経験したことのないチームプレーに憧れて、すぐに入部を決意。朝練の日は暗いうちに家を出て身体をたくさん動かし、それゆえ常にお腹が空いていて、1日5食、いや6食でも足りない時もあ

ったり…ラクロス三昧な毎日でした。しかし、部員がたくさんいたので試合に出させてもらえる時は少なく、悔しい思いを何度も経験した3年間。それでも「チームの力になりたい！」と必死でした。

ついに現役最後の試合の日。直前に、顧問の先生が私たちに話してくれた言葉が印象的でした。その内容は、戦術のことではなく、試合に出られなかった私たちのことでした。「試合に出すことができなかった人もいたけれど、その人たちの存在がなければここまで絶対に来られなかった、感謝を伝えたい。」そう言ってもらった時、試合に出られなかったことは悔しくてたまらなかったけれど、今までやってきたことは無駄じゃなかったのだな、試合に出られなかった私の存在にも意味があったのかとも思えて、私はその言葉に救われました。

当時から幼稚園教諭を目指していた私は、その頃から、自分もそうしてもらって嬉しかったように、すべての子が、「一人一人、みんなが必要不可欠で大切な存在」と感じられるような保育をしたいと今日まで思い続けてきました。子どもたちと過ごしていると、ゲームで負けて悔しかった、なかなか勝てなくて悲しいなど、思うようにいかない姿をたくさん目の当たりにします。でも、初雁幼稚園の先生方は、負けてしまった子の思いに寄り添って、子どもたちみんなとその気持ちを分かち合おうとしたり、うまくいく方法を一緒に考えたり…全ての子のどんな気持ちも大切にしている姿を、何度も見てきました。そしてその姿を見ているのは、子どもたちも同じ。私も子どもたちと一緒に、どんな気持ちにもとことん寄り添える、そんな人でありたいなと思っています。

最近、すみれ組の部屋から聖劇の歌が毎日心地よく聞こえてきます。ちゅうりっぷ組、たんぼぼ組、そしてすみれ組、全員が参加する聖劇礼拝。どの役も必要で大切な役。子どもたちの思いはさまざまかもしれませんが、どこにいても、どんな役を務めても、みんながいてこそ一つの形であることを、子どもたちにも感じてもらえたら良いなと思います。

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

今月のテーマ
「おめでとう」

目 標

- 心を合わせて喜びを表現する
- クリスマスの意味を知り、待ち、ともに祝う

学年別のねがい

- (1歳) みんなでクリスマスを迎える
- (2・満3歳) クリスマスをみんなで喜ぶ
- (年少組) クリスマスの意味を知り、祝う
- (年中組) みんなと心を合わせてクリスマスを祝う
- (年長組) 思いを1つにして、クリスマスを迎える

ひとこと

どのクラスもクリスマスの飾りをつけ、アドベントカレンダーを毎日1つずつめくっています。1、2歳は、「クリスマスって楽しいな。うれしいな」という思いを膨らませ、3歳以上はクリスマスのお話を聞いて、少しずつ近づいてくることを喜び、みんなでイエス様の誕生を劇にしてお祝いする準備をしていきます。どのような場所の、どのような人にも目をとめ、大事にしてくださる神様。そのお子様のイエス様が生まれたクリスマスをともに祝い、喜びたいと思います。

今月の聖歌

「ひつじさんめえめえめえ」

今月の歌 「赤鼻のトナカイ」

★予定★

日	曜	行事などの予定
1	木	アルミ缶回収
2	金	全体礼拝 ↓
3	土	就労家庭保育実施日
4	日	
5	月	
6	火	
7	水	12月生まれ誕生会
8	木	
9	金	全体礼拝
10	土	就労家庭保育実施日 新採研⑨
11	日	
12	月	
13	火	
14	水	聖劇礼拝リハーサル（年中少参観） 期末短縮開始
15	木	聖劇礼拝（年長参観）
16	金	終業式
17	土	就労家庭保育実施日
18	日	
19	月	1号認定冬休み開始
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	就労家庭保育実施日 クリスマスイブ
25	日	クリスマス
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	就労家庭・教職員冬休み（1/3まで）
30	金	
31	土	
1月		
1	日	元日
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	始業式・短縮保育

チャプレンのページ



悲しみの先にある喜び

「すべての民に与えられる大きな喜びを告げる」

(ルカによる福音書第2章10節)

クリスマスの準備を始める頃となりました。初雁幼稚園では幼児部全園児が聖劇礼拝に参加し、イエス様誕生の喜びを全身で体験します。子どもたちが真剣に取り組む姿は、私たちに大きな喜びと希望を与え、このクリスマス一番の神様のプレゼントに思えます。

さて、喜びと愛にあふれているはずのクリスマス物語なのに、ずいぶんそれとかけ離れた様子が、あちこちに登場するのにお気づきの方も多いのではと思います。

マリアが臨月を迎えた頃、人口調査の命令がユダヤ全土に出されました。これはユダヤの国を属州支配していたローマ帝国が、課税目的で行ったものです。税金は人頭税として課され、日本でいう本籍地へ家族全員が出向いて、家族の人数を申告し、ローマも実際にやってきた人数と申告が合っているかを確認したのです。ヨセフの出身地は住んでいたナザレから約180kmも離れたベツレヘムでした。出産直前のマリアにとって長旅が危険でしたが、命令は厳しく一切の事情は考慮されなかったのです。

そして彼らがベツレヘムへ到着すると、同じ目的でベツレヘムへ来た人たちで宿屋はすでに満員、彼らが泊まる余地はありませんでした。彼らにとって人々の助けが必要だったのは明らかですが、誰も手を差し伸べることはなく、誕生したイエス様は布にくるまれ飼い葉桶に寝かされました。ローマからの厳しい命令のため、皆自分のことで精一杯だったのでしょうけれども、イエス様の誕生時、宿屋は人であふれていたにもかかわらず、誰もその誕生に気づくことはなかったのです。

イエス様に最初に会ったのが羊飼いでした。ユダヤ社会は差別がひどかったことで知られていますが、最も蔑まれていたのが羊飼いたちでした。彼らは家もなく家族もなく、水と草のあるところを追い求めて旅をして羊を育て、羊を売って生計を立てていました。この世の人生で、喜びも希望もなく、日々を生きていたのです。そこへ天使たちが現れてイエス様の誕生を知らせ、これは世界の人々に与えられる大きな喜びであるとつげたのです。

このようにクリスマスの喜びは、悲しみや失望に沈んでいた人たちに対して、この世界のものではない喜びとして示されたことだったのだと聖書は伝えているのです。

新型コロナウイルス感染症の影響が続き、今年のクリスマスも不安の中で迎えることになりました。クリスマスの物語は単なる喜びではなく、困難にしっかりと立ち向かい、悲しみのうちに沈んでいた人々へ示された真の喜びでした。子どもたちと私たちが本年この喜びに満たされますようにと祈ります。

(チャプレン 鈴木 伸明)

クラスの窓



つくし組

絵本大好き

つくし組の子どもたちは歌や絵本、スケッチブックシアターが大好き。お昼寝の時も「これ読んで」とお気に入りの絵本をリクエストすることがあります。季節の絵本や子どもたちの好きそうな絵本、もも組が持ってきてくれた絵本など楽しんでいます。4月は短めの絵本を見ていましたが、現在は長い物語も楽しんでいます。最近では「どうぞのいす」をよく見えています。うさぎさんが椅子を作っているシーンで、「はっ」と何やら気づいた様子で立ち上がる子。「どうしたの」と尋ねると自分の座っていた椅子を持ち上げ「椅子、おんな!!」と言う様子で見せてくれました。他の子たちも「本当だ」という表情。絵本の世界と自分の今いる世界で同じものを発見した時の子どもの嬉しそうな顔!とてもキラキラしていました。読み進めていくと動物たちが置いていった食べ物を皆で食べる真似。優しいつくし組は保育者にも「どーぞー」と分けてくれます。これからもお家や幼稚園でいろいろな絵本に出会うと思います。大人になってからも思い出に残るような、そんな絵本に出会えますように。

もも組

友だちの姿を見て



いろいろな影響を受け合いながら日々成長している子どもたち。怖いけれど、みんながやってみるなら自分も挑戦してみようという気持ちが芽生えるようでとても遅く感じています。たくし公園へ行くのに川を渡らなければならず、初めて石をジャンプして渡ってみました。最初は怖がっていた子もいましたが、すでに渡り切った友だちが向こう岸で「がんばれがんばれ〇〇ちゃん!」と全力で応援してくれて、見事全員渡り切ることができました!また、喜多院のお堀では急な坂道を登って、滑り台のようにズリズリ滑り降りる遊びを楽しんでいました。

すると、やりたいけど怖いという葛藤から涙する子がいました。「大丈夫?」と心配されながらも友だちの姿を見て「やっぱりやりたい」と頑張って登り、最後は笑顔でズリズリと降りてくることができ、本人も満足そうでした。大人が言葉で言うよりも子ども同士のやり取りの方が何倍もやる気に繋がるのだなと感じます。少し危なっかしい所はありますが、友だちと楽しみながら挑戦してほしいと思います。

ちゅうりっぷ組

楽しさを全身で感じた喜多院遠足

初めての喜多院遠足に楽しみがいっぱいな子どもたち。遠足1週間前から、「何を持っていくのか」「何をするのか」「手繋ぎペアは」など「喜多院の秘密」を1日1個ずつ発表しました。いつもはすみれ組と手を繋ぎますが当日はたんぽぽ組です。少しドキドキしながらも、お兄さんお姉さんに手をひかれ頑張って歩きました。喜多院公園では幼稚園にない遊具で遊んだり、どんぐりを拾ったりと自由に過ごしました。今日はみんなおうちの人に作ってもらったお弁当！友だちと見せ合い、嬉しそうに抱えながら食べていました。喜多院ではお堀探検とザリガニ釣りを行います。特にお堀探検ではたくさんの落ち葉を集めて「せーのっ！」と飛ばしたり、落ち葉合戦をしたり落ち葉に埋もれながら遊んだ後は土手滑りです。最初は登るのが難しく、滑るのが怖くて涙目になる子もいましたが、遊んでいるうちに斜面を滑る緊張とスルスルと降りていく楽しさを全身で感じている姿に子どもたちの身体能力の良さに驚く担任でした。

たんぽぽ組

思いのこもったクリスマスツリー

先日、クリスマスツリーの飾り付けをしました。「一番上の星はみんなでやるんだよ！」とすみれ組からのアドバイスを受けて、星をどうやって飾るかクラスで話し合いました。案がたくさん出ましたが、なかなか決まらず、「みんなが順番でやったら？」と一人が提案すると、全員の意見が一致。星をつけて、取って、また次の人が星をつけて…と順番に一つの星を飾ることになりました。子どもたちならではの発想に感心していると、「何番目にやりたい」と何人かの子が言い始めます。「今から22番まで順番を決めるのは難しいよ～」と私が話すと、「うーん、じゃあこうしたらどう？」と子どもたちが案を出し始めたのです。友だちの思いを汲み取って何とかしようとする姿にハッとさせられ、反省すると同時に、成長を感じて嬉しくなりました。最終的には、星を飾った後に、その子が次に飾る子を決めて渡すという案で落ち着き、みんながみんなの思いを汲み取りながら、星を飾ることができました。たんぽぽ組のクリスマスツリーは思いがこもった特別なものになりました。

すみれ組

自分で考える日

年中少組が喜多院遠足へ行った日、すみれ組では「自分で考える日」を行いました。自分で考える日とは、①お祈りをする、②13時25分には支度をしてクラスに戻ってくる、この2つを行い、後は自由に過ごしていい日です。登園するなり「今日は自由だー！」といつもより生

き生きとしていました。早く遊びたいから支度を早く終わらせようとしたり、自分の好きな場所でご飯を食べたりしていました。また、普段一緒にいる友だちとはまた違う友だちとのつながりもあり、この日ならではの姿が見られました。

約束の時間にクラスに戻って来たのは1人で、帰りはドタバタとしていました。それでも、しっかり者で一生懸命すぎる子どもたちが「遊びに夢中になって時間を忘れた」そんな一面が見られて嬉しくもありました。まだまだ子どもたちの新しい姿に出会えることが楽しくなりません。聖劇に向けて少し忙しくなるすみれ組。子どもたちの一生懸命な姿は受け止めつつ、ホッと息をつけるゆったりとした時間も大切にしたいと思っています。

どんぐり組

散歩で仲が深まっています

今月は、多く散歩に出かけたどんぐり組。いつもの初雁公園だけではなく、公民館の広場や浮島公園、たくし公園へ出かけました。手繋ぎペアは教会の時と違い、その日にいるメンバーで組むので毎回違います。お昼ご飯を食べながらペアを発表していますが、遠くにいるペアの子をちらっと見て確認し、「よろしくね」と目を合わせると、あっという間に覚えて仲良く手を繋ぎます。歩きながら歌を歌ったり、お話したり、それぞれのペアで盛り上がり方は違いますが、子どもたちが以前よりもぐっと仲が深まっているのを感じられます。秋の公園は魅力たっぷり！どんぐりを拾ったり、枝を持って探検したり、木の実や落ち葉を集めたり。その公園にしかない遊具も人気です。いろいろなクラスの子が長い滑り台に連なって滑り、キャッキヤ言いながら盛り上がっている姿はとても可愛らしく、自然と異年齢で交わり遊ぶ姿が多くなっているのを感じます。これからも、たくさん散歩に出かけたいなと思っています。



今月の聖書のおはなし



☆ 12月2日クリスマス物語Ⅱ ルカによる福音書2章8～21, マタイによる福音書2章1～17

ローマ皇帝から全領土に住民登録せよとの命令が出されました。ヨセフは身重の妻マリアを伴って住んでいるナザレから先祖ダビデの町ベツレヘムに上って行きました。旅の途中、マリアは男の子を産みました。おさな子は粗末な家畜小屋に生まれ、布にくるまれて飼い葉桶に寝かされていました。近くで羊の番をしていた羊飼いたちに天使からうれしい知らせが届き、マリアとヨセフ、また乳飲み子を探し当てました。最初にお祝いにつけつけたのは羊飼いたちでした。8日目におさな子はイエスと名付けられました。

東の国の星占いの学者たちはヘロデの王宮を訪ね「ユダヤ人の王として生まれた方はどこにおられますか」と言いました。王は民の祭司长や律法学者たちに調べさせてベツレヘムであることが分かり、博士たちに「見つかったら知らせるように」と言って送り出しました。博士たちは星に導かれておさな子のいる場所を探し当て、持ってきた黄金、乳香、もつ薬を贈り物として捧げました。

わが家のまど



(262) 待ち受け画面にほっこり♡

つくし組担任 久保田沙樹

今年いとこの子が20歳に。「一緒に幼稚園見学行ったなあ。一緒にアンパンマンミュージアム行ったなあ。一緒に将棋したなあって振り返っていたら、立派になって…と感極まって涙ほろりしそうになったよ」、なんて出来事があったと妹に話していたら「甥っ子が成人した時は一体どうするの(笑)」と。妹とは7つ離れていたこともあってか喧嘩らしい喧嘩もなく過ごしてきました。妹の話ばかりするので弟の影が薄く、妹しかいないと思われることもしばしば。小学校の授業参観に行ったり(さすがに懇談会はでなかった)、学校説明会についてきてと言われ一緒に行ったりと、まあまあ仲の良い姉妹なのではないかと思っています。

そんな妹は末っ子ならではの上手な甘えっぷりで…買い物に行けば私の持っている買い物カゴに欲しいものを入れ「これ、買ってくれてもいいんだよ。(訳:これ買ってください)」知らぬ間に私の化粧品を使っていて、「なんで私の化粧品使ってるのさ」と尋ねると、「だって落ちてたから」「どこに」「おねえの部屋」、それは落ちていると言わないのでは…。なんやかんやかわいいのが妹。

そんな彼女も結婚し、昨年には甥っ子も誕生。コロナ禍でなかなか会いに行けず、初めての対面は生後4ヶ月目。そうなる予感はしていたけれども、やっぱりおばたんはメロメロ。おばたんの携帯の待ち受け画面はいとこの子2人と甥っ子ちゃん。いとこの子は小さい子が大好きなので甥っ子ちゃんを抱っこしてにっこり。なんとも幸せな光景におばたんは毎回画面を見るたびにほっこりなのです♡